

株式会社日本格付研究所（JCR）は、以下のとおり信用格付の結果を公表します。

株式会社清水銀行（証券コード:8364）

【見直し変更】

長期発行体格付
格付の見直し

A-
安定的 → ポジティブ

■格付事由

- 静岡市に本店を置く地方銀行で資金量は約1.5兆円。静岡県内全体での貸出金シェアは6%超だが、主要な営業基盤である静岡市清水区などでは高いシェアを有している。静岡県は製造品出荷額などが全国で上位に位置するなど地域金融機関としては比較的恵まれたエリアである。これらの事業基盤、相応の資本水準などへの評価が格付を支えている。JCRは、収益力の強化が当行の課題と考えてきたが、足元では速いペースで改善が進んできた。このため、格付の見直しを「ポジティブ」に変更した。事業基盤の拡充を通じて収益力の強化を図りつつ、資本水準を維持できるかが、今後の信用力向上に向けたポイントになるとJCRは考えている。
- 21/3期のコア業務純益（投資信託の解約損益を除く、以下同じ）は33億円と約5割の増益となった。22/3期上半期も4割近い増益であり、ROA（コア業務純益ベース）は0.2%台半ばまで上昇した。増益を牽引しているのは、フィー収益および貸出金利息の増加、経費の削減である。フィー収益では、とりわけ法人向けが好調である。コベナント付融資やシンジケートローンなど、ラインナップを拡充し収益の厚みが増している。貸出金利息は21/3期に大幅な増収となったが、コロナ関連の資金繰り支援対応で既存の事業性貸出に比べて利回りが高い信用保証協会保証付貸出が大きく増加したことが寄与している。今後、同貸出の返済が進むとみられ、プロパー貸出の増強などで利息収入を下支えしていけるか見守っていく。また、中期的には基幹系システムの更改が見込まれ、経費増の圧力を緩和できるか注目していく。
- 金融再生法開示債権比率は21年9月末で1.36%と低水準にある。コア業務純益が堅調に推移していることなどを勘案すると、与信費用は期間損益で十分に吸収可能な範囲内で推移するとJCRはみている。ただし、その他要注意先の中に未保全額が収益対比でみて大きい先が多く、コロナ禍が長期化するなか引き続き与信費用の動向を注視していく。有価証券運用にかかるリスク量は資本対比で過大とはなっておらず、当面も管理可能な範囲内で推移するとJCRは考えている。
- 一般貸倒引当金などを調整後の連結コア資本比率は21年9月末で約9%と、20年3月末の8%台半ばを直近のボトムとし改善が進んでいる。堅調な業績を背景に内部留保が蓄積していることに加え、信用保証協会保証付貸出の構成比が高まりリスクアセットの増加が抑制されたことなどが寄与した。今後、中小企業向けのプロパー貸出を増強する方針としているが、現状程度の資本水準を維持できるかJCRはフォローしていく。

（担当）加藤 厚・大石 剛

■格付対象

発行体：株式会社清水銀行

【見直し変更】

| 対象 | 格付 | 見直し |
|---------|----|-------|
| 長期発行体格付 | A- | ポジティブ |

格付提供方針に基づくその他開示事項

1. 信用格付を付与した年月日：2021年12月23日
2. 信用格付の付与について代表して責任を有する者：松村 省三
主任格付アナリスト：加藤 厚
3. 評価の前提・等級基準：
評価の前提および等級基準は、JCRのホームページ (<https://www.jcr.co.jp/>) の「格付関連情報」に「信用格付の種類と記号の定義」(2014年1月6日)として掲載している。
4. 信用格付の付与にかかる方法の概要：
本件信用格付の付与にかかる方法の概要は、JCRのホームページ (<https://www.jcr.co.jp/>) の「格付関連情報」に、「コーポレート等の信用格付方法」(2014年11月7日)、「銀行等」(2021年10月1日)として掲載している。
5. 格付関係者：
(発行体・債務者等) 株式会社清水銀行
6. 本件信用格付の前提・意義・限界：
本件信用格付は、格付対象となる債務について約定通り履行される確実性の程度を等級をもって示すものである。
本件信用格付は、債務履行の確実性の程度に関してのJCRの現時点での総合的な意見の表明であり、当該確実性の程度を完全に表示しているものではない。また、本件信用格付は、デフォルト率や損失の程度を予想するものではない。本件信用格付の評価の対象には、価格変動リスクや市場流動性リスクなど、債務履行の確実性の程度以外の事項は含まれない。
本件信用格付は、格付対象の発行体の業績、規制などを含む業界環境などの変化に伴い見直され、変動する。また、本件信用格付の付与にあたり利用した情報は、JCRが格付対象の発行体および正確で信頼すべき情報源から入手したものであるが、当該情報には、人為的、機械的またはその他の理由により誤りが存在する可能性がある。
7. 本件信用格付に利用した主要な情報の概要および提供者：
・ 格付関係者が提供した監査済財務諸表
・ 格付関係者が提供した業績、経営方針などに関する資料および説明
8. 利用した主要な情報の品質を確保するために講じられた措置の概要：
JCRは、信用格付の審査の基礎をなす情報の品質確保についての方針を定めている。本件信用格付においては、独立監査人による監査、発行体もしくは中立的な機関による対外公表、または担当格付アナリストによる検証など、当該方針が求める要件を満たした情報を、審査の基礎をなす情報として利用した。
9. JCRに対して直近1年以内に講じられた監督上の措置：なし

■留意事項

本文書に記載された情報は、JCRが、発行体および正確で信頼すべき情報源から入手したものです。ただし、当該情報には、人為的、機械的、またはその他の事由による誤りが存在する可能性があります。したがって、JCRは、明示的であると黙示的であると問わず、当該情報の正確性、結果的正確性、適時性、完全性、市場性、特定の目的への適合性について、一切表明保証するものではなく、また、JCRは、当該情報の誤り、遺漏、または当該情報を使用した結果について、一切責任を負いません。JCRは、いかなる状況においても、当該情報のあらゆる使用から生じうる、機会損失、金銭的損失を含むあらゆる種類の、特別損害、間接損害、付随的損害、派生的損害について、契約責任、不法行為責任、無過失責任その他責任原因のいかんを問わず、また、当該損害が予見可能であると予見不可能であると問わず、一切責任を負いません。また、JCRの格付は意見の表明であって、事実の表明ではなく、信用リスクの判断や個別の債券、コマーシャルペーパー等の購入、売却、保有の意思決定に関して何らの推奨をするものでもありません。JCRの格付は、情報の変更、情報の不足その他の事由により変更、中断、または撤回されることがあります。格付は原則として発行体より手数料をいただいております。JCRの格付データを含め、本文書に係る一切の権利は、JCRが保有しています。JCRの格付データを含め、本文書の一部または全部を問わず、JCRに無断で複製、翻案、改変等を行うことは禁じられています。

■NRSRO登録状況

JCRは、米国証券取引委員会が定めるNRSRO (Nationally Recognized Statistical Rating Organization) の5つの信用格付クラスのうち、以下の4クラスに登録しています。(1)金融機関、ブローカー・ディーラー、(2)保険会社、(3)一般事業法人、(4)政府・地方自治体。米国証券取引委員会規則17g-7(a)項に基づく開示の対象となる場合、当該開示はJCRのホームページ (<https://www.jcr.co.jp/en/>) に掲載されるニュースリリースに添付しています。

■本件に関するお問い合わせ先

情報サービス部 TEL: 03-3544-7013 FAX: 03-3544-7026

株式会社 **日本格付研究所**

Japan Credit Rating Agency, Ltd.

信用格付業者 金融庁長官(格付)第1号

〒104-0061 東京都中央区銀座5-15-8 時事通信ビル